

東漸

T O K Y O Z E N

本市は全国でも頂点に立つほどの技術を備えており、

さらなる省エネを推進し都市を再開発することについては喫緊の課題である。
小売業・製造業という括りではなくて、需要に適応を合わせていく感覚での見直し。
本市の将来性を新しい視点から見極める

商業都市として発展してきた
本市の振興策を提案しながら、
その中で市の発展への道を明確にし、将来への責務を果たす

古くから国際化を目指して
さまざまな取り組みを進めていることはよくわかるが、
最も競争の激しい、企業の海外進出に力を入れて支援しているか？

企業の海外進出に対する
自治体の支援について

第3回定例会代表質問

折立小学校の復旧改修工事日程について
広瀬中学校の分離新設決定！

平成25年度 施工個所一覧表

一緒に創ろう！仙台の未来
青葉区発
仙台市議会 政策報告
No.12
平成25年12月
発行者 加藤和彦
仙台市青葉区愛子東六丁目7-45
TEL.022-392-2213 FAX.022-392-6176
<http://k-kazuhiko.com/>

TOPIC

平成25年第3回定例会において

かねてから提案を続けていた、人

口増加に伴う広瀬中学校の分離

新設における代表質問



広瀬中学校

第3回
定例会
代表質問

錦ヶ丘小学校新設が動きだし地域の期待も大きい！
その後、成長する子供たちには中学校の分離新設も必要となる。

広瀬中学校の分離新設決定！

広瀬中学校の過大規模化の解消について

Q 錦ヶ丘地区における人口増加に伴い、過大規模校化する広瀬中学校において具体的な判断、すなわち、分離新設の判断をしなければならない時期時期にきているのではないか？

A 過大規模校の状態が継続することが予想され、学区変更を行っても、その状態が解消されないと見込まれますから、学校を新設して教育環境の改善を図ることが必要と認識したところでございます。

第一回議案、錦ヶ丘小学校に係る工事請負契約の締結に関する件に関連してお伺いします。錦ヶ丘小学校については、愛子小学校の過大規模校化を解消するために学区の一部を分離して設置することとなり、今般、校舎の工事請負案件が提案されました。現在、愛子小学校は40学級規模となっており、錦ヶ丘小学校の建設が目見える形で動き出することになり、地域の期待も大きいものがあります。錦ヶ丘地区はここ数年人口の伸びが顕著で、特に若い世代が増えています。このため、子供たちの数も増えていくのは明らかです。小学校は分離新設されることになりましたが、小学生もいずれ中学生になります。この地域の中学生は現在広瀬中学校に通学していますが、広瀬中学校もここ数年生徒数の増加が続いており、今後もこの傾向は続くとみられます。今年5月現在で、生徒数1,020人、学級数32学級と過大規模校化しています。仮設校舎も10教室分あり、過密な状態となっています。広瀬中学校についても、過大規模校状態の解消についてこれまでも検討を続けているとのことです。が、地域からの要望書などもたびたび出ており、そろそろ具体的な判断、すなわち、分離新設の判断をしなければならない時期に来ているのではないでしょうか。

お考えを伺います。その結果、今後も相当の期間にわたりて過大規模校の状態が継続するところが予想され、学区変更を行っても、その状態が解消されないと見込まれますことから、学校を新設して離新設などの方策について慎重に検討を重ねてまいりました。たって過大規模校の状態が継続するところが予想され、学区変更を行っても、その状態が解消されないと見込まれますことから、学校を新設して教育環境の改善を図ることが必要と認識したところでございます。今後、すみやかに建設場所の選定や学区の検討など、分離新設に向けた具体的な取組みを鋭意進めてまいります。



— Q ↓ 加藤 和彦 議員 —

— A ↓ 教育長 —

広瀬中学校の過大規模化の解消についてのご質問にお答えします。

広瀬中学校は、生徒数の急激な増加により、過大規模化が進んでおり、これまで、将来の生徒数について詳細な推計を行うとともに、隣接する学校との学区変更や学校の分離新設などの方策について慎重に検討を重ねてまいりました。

たって過大規模校の状態が継続するところが予想され、学区変更を行っても、その状態が解消されないと見込まれますことから、学校を新設して教育環境の改善を図ることが必要と認識したところでございます。

今後、すみやかに建設場所の選定や学区の検討など、分離新設に向けた具体的な取組みを鋭意進めてまいります。

加藤和彦議員 × 仙台市長 × 経済局

加藤和彦議員 × 仙台市長 × 経済局

品はどうなっているだろう。よから仕入れて流通したからそれだけでよいものかどうか考えてみる必要がある。大震災で寄りの農地は大きいダメージを受け、漁港は跡形もなくなり、以前のような一次産品供給は考えにくい。県内も同様だが復興の歩みは遅々としてもどかしく、重要な働き手は仕事を失い地元から離れて行き、残るのは高齢者だけという状況では生活のめども立たない。したがって他の地域から供給されるものを消費するしかない。しかし商業都市というものは周りに多くの产品があつてこそ健全に成長するのは歴史的に当然です。

そこで仙台経済発展プロジェクト事業において、中心部商店街活性化等促進、①中心部商店街将来ビジョン推進事業、②中北部商店街活性化促進では、市民の新思考での商店街に寄せる期待感をどのように受け止め、市としてこれから商業都市としての仙台市をどのように築き上げていくお考えか、構想をお聞かせ願います。

③ 巧みに流通させて消費者の信用を繋ぐことと新しい需要の掘り起こしの支援

仙台港をはじめ大量の物資集散拠点を持つ本市は、情報網・交通網の充実と安全性から陸上海上を問わず常に生産地と消費地上をつないでいる。その効率が向上

すれば経費が少なく商品の価格に貢献する。青果市場や魚市場に

冷凍庫・冷蔵庫を充実して産物の鮮度を保つため市が果たした役割は大きい。

それならば新しい商品の開発による新需要の掘り起こしもで

きるに違いない。産学官の協力に

より将来必要と見込まれる商品

を発掘したり開発して、トップ

セールスを先頭に市を挙げて全

国に売り込み成功すれば世界に

売り込むことを考えるべきであ

ると考えます。一方今の世界の商

品開発の速度や開発のねらいな

どの研究が必要であるし、国内で

の需要の変化を探ることも必要

である。

(1) 販路拡大支援、(2) 東北復興交

流パーク、(3) 東北復興創業スクワ

ア、(4) ものづくり関連産業復旧・

復興支援で取り上げている考え

方は復旧・復興重点であつて、極

めて視野が狭いと考えざるを得

ない。どうしてそうなのか、復旧・

復興といえど時代の要請に叶つ

てないお考えか、構想をお聞かせ願います。

④ 商業都市としての構築等について

商業都市としての構想につい

てございます。東北で最大の

商業集積である中心部商店街

や、それぞれ特色ある商圈を有

する地域商店街及び商業集積工

リア、また東北各地への卸機能

を持つ卸売業の集積などが、本

市の商業都市としての特徴であ

ると認識しております。

市当局の従来の考え方から脱皮し、未来の発展に繋ぐ発想の転換をしていかなければ、市の発展は望むべくないと考えます。このことについて当局の将来の展望と構想をお伺いします。

⑤ 商業都市の構築等について

商業都市としての構想につい

てございます。東北で最大の

商業集積である中心部商店街

と、これまで早期の復旧・復興を

第一とする集中施策やステップ

震災により大きな被害を受けた東北の振興には、まずは本市の再生が不可欠との認識のも

